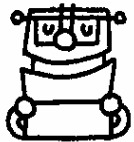


火山のふん火は、なぜ起きるの



はっきりわかってないけど、地下のマグマのまわりに気体がたまり、急にふくらんでばく発するためといわれているよ。

マグマにとけていた気体がふくらんで、ばく発が起きる

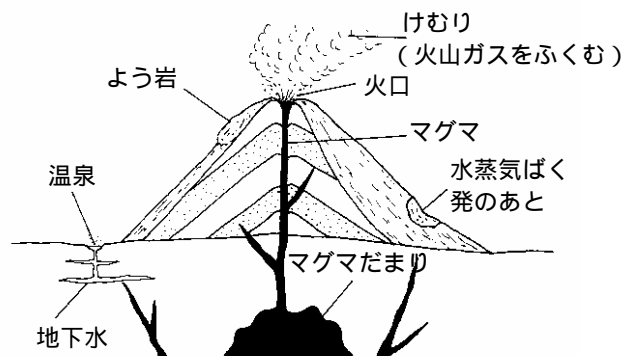
地球の地下のところどころには、高温で、どろどろにとけたマグマがたまっている場所（マグマだまり）があります。マグマは、地下の深い所にある岩石が、高温でとけて液体のようになったものです。

地下のマグマには、強い圧力がかかっているため、たくさんの気体がとけこんでいます。マグマが、マグマだまりでまわりの岩石に熱をうばわれ冷えて固まり始めると、中にとけていた気体が出てきてたまります。急激きゅうげきにマグマだまりの気体の体積がふえると、地表の弱いところをつきやぶって、気体が外へ飛び出してきます。これが火口となり、次々に、マグマや気体（火山ガス）の混じったものがふき出して、火山のふん火となります。マグマにふくまれている気体は、水蒸気すいじょうき、二酸化炭素などがおもですが、二酸化硫黄いおうなども、よくふくまれています。

このときふき出したよう岩が、空気中で冷えると、火成岩ができます。

マグマで熱せられた地下水の水蒸気が、ばく発を起こす

高温のマグマのために、地下水が熱せられて水蒸気になり、いっきに気体の体積がふくらんで、まわりの岩石をふき飛ばして起こる、水蒸気ばく発のようなふん火もあります。日本では、火山のふん火の40%ぐらいは、この水蒸気ばく発タイプで、よう岩は出ないで、まわりの岩石やどしゃがふき飛ばされて飛び散り、山の形が変わってしまったりします。



火山のふん火